

第1回 平林貯木場（住吉浦・平林埋立地）探鳥会 2024年3月30日（土）

9時30分 ニュートラム平林駅 集合 12時 住之江公園内 解散

榎本佳樹が、大阪府内で一番よく通った場所が、淀川河口部とここ住吉浦（平林埋立地）でした。当時は、埋立途中で、ヨシ原や湿地が広がりシギ・チドリ類をはじめとする野鳥の一大生息地でした。

大阪の木材団地は元々西区にあったがその後大正区に移転、第二次世界大戦を経て、戦災と高潮災害により大正区が壊滅的な被害を受け、その復興のため立案された大阪港復興計画により、大正区は内国貿易港区として整備され、一方、明治39年から昭和7年までに埋め立てられた約200haの平林地区は、戦後、その一部が野菜畑として利用されていただけで、土地の有効利用が望まれていたため、平林地区を近代的な貯木場として整備されることになり、昭和23年から工事が進められ、昭和27年度から共用開始し、最後の4号池は35年度に着工、36年度から共用を開始。南洋材や米材が浮かぶ木材工業団地に生まれ変わりました。

後に、輸入木材において、原木よりも製品輸入の比率が高くなり、今では、貯木場の水面を輸入原木が埋め尽くす光景は見られなくなっています。今は、わずかに浮かぶ木材の上にカモやカモメなどの水鳥が休んでいます。



住吉浦にて 昭和11(1936)年12月 63歳当時

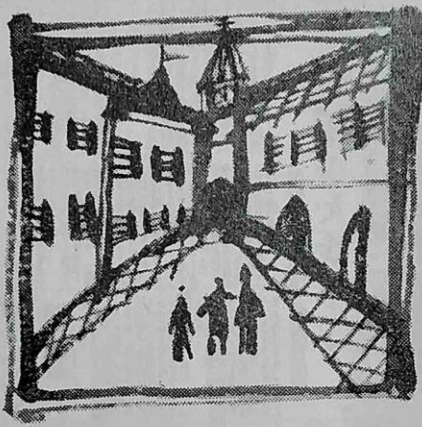
大阪近郊には近ごろ鳥が少なくなつた。それも磯り鳥など次第に少なくなつて行く、といふのも他郷の都であり、人工の都であつてみれば仕方ないことも知れない。
私は鳥好きだけれど、そしてもう五十年といふもの鳥を研究してきたけれど、また家で鳥といふものを飼つたことがない、私はよく磯り鳥を見に行く、それも大阪ではあの木津川と大和川との間、住吉公園の西の俗に住吉灘といふ蘆のはえた地である。

今年はい千鳥が二月の七日に來た、七日に來たといふのは、その日に私が行つてみたからである、正確にいふと或はその二日が三日くらい早く來てゐたかもしれない、例年は早くとも三月のはじめに來るのだから、一ヶ月は早く來たのであらう、鳥といふものは氣温には人間などより、よほど敏感なものだから今年も例年より一ヶ月も春が早く來たといへるかもしれない。

この住吉灘も近ごろ地上げをして埋立てたので大分鳥の來たことも少なくなつた、やはり磯り鳥として來るのはシギ、千鳥、カモメも來る、ミサユといふ事も二羽か三羽くらゐは必ず來てゐる、チュウビといふトビによく似た鳥もある、タカ類もくる、チュウビは五月から七月が繁殖期だが、シベリヤで繁殖して、こゝへは冬にやってくる、十一月ごろに來て三月一杯はいるのである、シギ、千鳥などは少しづつに繁殖期もあはく。

この住吉灘は雨かきるとじめじめと水がたまり、下の泥の中からも水がわづらへんの、その中から小さなカヒヒや小魚がわづらへんの、がたれたら、こゝに鳥がたまり、鳥がたまるのである。

磯りが不登なところはこの灘まで海が潮がきたのでいろ／＼な動物もとれて磯り鳥には至善よいところだつたが、今ではどうもたゞしくと鳥には悪いところになつてきてしまつた、アジサシといふ鳥もくるにはくるが、やはり鳥をみるには朝がよい、これも朝早くがよい、本當は朝の六時ごろからよいのだが、私は大阪九時ごろに行く、それで今年はい千鳥が二月の七日に來た、春は南から來て、秋は北から來る、繁殖地への渡りしらへに、しばしこの地に



る、本職ではわからない、双眼鏡でちつとみてゐるのである、と鳥は幸ひに近くへ來ることもあるが、シギ繁殖は四月の末から五月の下旬にかけてくる。
鳥の産する日数がたゞしく減つてきたことはやはり當然であらう、もと秋などは早く來て十月の中ごろまである、それが秋は今では九月にはこゝを去るようになった、工場のはたが流れてきてエサが繁殖しない、エサがないから従つてゐられないといふわけである。

立ち寄るといつたわけである。

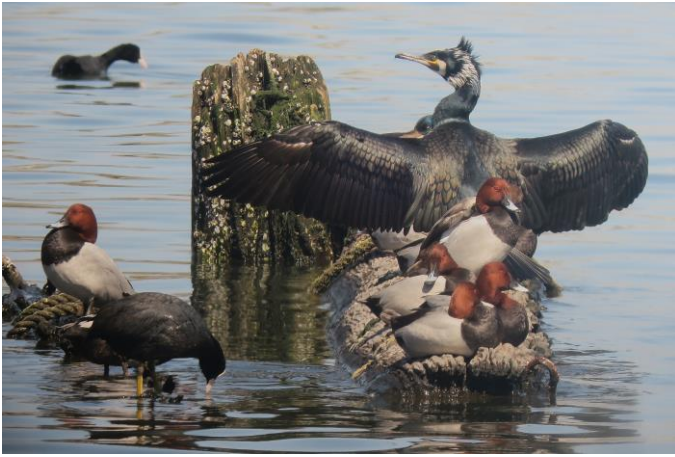
もとはこの邊でも繁殖してゐたが、近ごろではそれもなくなつてしまつた、昔は秋まであるのもつた、こゝで繁殖するのは秋がくると南へととんで行くのであつた、北の方で繁殖するのは、こゝへ來て冬をこすといふのもあつた。
かういふと、私はいつてもこの住吉灘で鳥の傍にゐるやうであるが、やはり鳥は敏感だから、なかく鳥の傍へ行けるものではない、近くで百は、シギ、千鳥になると、どうして二百、三百はなはなれてゐる。

鳥り渡 榎本佳樹

な、と一々かきとめスケッチにもしておく、鳥の研究は五十年にもなるが大阪ではまた七年ばかりである。
私は高野山には長くゐたが、高野山、それに比叡山は何といつても鳥の本場である、それに南海高野線の三日市で降りて二里ほど南の和州と河内の境葛城山脈の中の岩湧山、或は岩面附近、それに吉野山はまあゐる方であらう、しかし山は冬はあまりない、春の末から夏小口がい、月でいふと三、四、五、六の月がいい、新緑の候といふころである、ケヤキ、ムク、センドン、ヤツデといつた樹葉樹に杉などのほえた山がい。

大阪はこの住吉灘以外に取神帯車の尼崎線を「コフレ」といふところまで降り、新淀川の堤防へ出て、下口へ歩くと川の中の洲がある、今年もこゝはまたくるとであらう、三時間でも四時間でも長い日には夕方までおつと私はある、春のうちはまだいいが夏になるとなかくに辛い、ちつとみてゐる、あの鳥は今日は鳴き方がいつもと違つてゐる、では、あゝいふ鳴き方もするんだ、といふことがわかる、今日はかういふ風にエサを食つた、どうしてあゝいふエサのくひ方もするんだ

近ごろの都會の人は磯り鳥などなくなつた、私などは磯り鳥などをみてるので、しら／＼のうちに人間がかはつてきたようにさへ思つてゐる、鳥をみてゐるといふものはかく／＼いゝものである、第一、大阪の住吉灘にシギやカモや小千鳥といつた磯り鳥がくるだけではない、磯田川の千鳥は合はなうなつたであらう、おそろくもう大してゐないのであるまいか、シギなどこの住吉灘では時には一つの群で二千羽くらゐあつてゐることがある、足の赤い珍しい雛やシギなど何千と淀川の堤防にくるゝことへある、珍しいのは日本にたゞくさんはないといふツバメ千鳥、これが淀川には毎年必ず二羽か三羽はくる、私がこの住吉灘にでかけて長く時間のかゝつたときは鳥が多かつた日か珍しい鳥の來てゐる日である、榎本氏はもと高野山中學教諭、農林省の委託をうけ磯り鳥の研究に従事。



本日の探鳥コース → 観察ポイント ● 鳥のいるところ ○



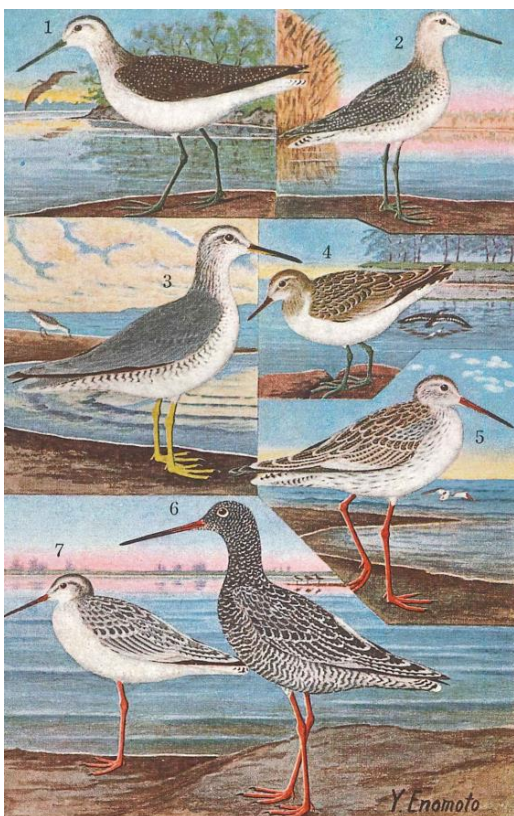
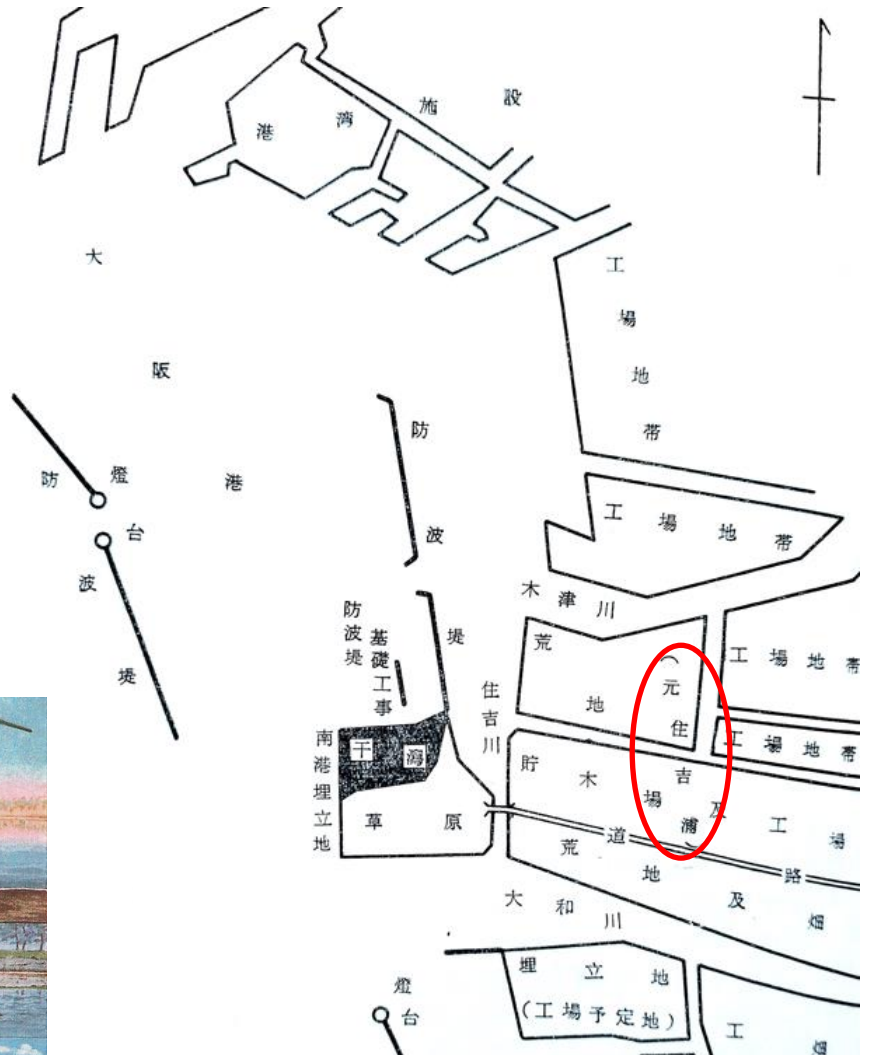
住吉浦について

1959（昭和34）年に発行された「大阪湾に渡来するシギ・チドリ類」（小林桂助著）に、南港埋立地と元の住吉浦一帯に関して以下のような記述が残されている。

私は1950年1月以降大阪南港（東経135°27′北緯34°37′）に於て主としてシギ・チドリ類の「渡り」の調査を続けて来た。この調査は更に継続中であるが、近年南港に続く元の住吉浦一帯も逐次開発されて、工場が建ったり、貯木場が出来て行くし、又南港自体も後述する通りその姿が全く変貌するのも遠い将来の事ではあるまい。依ってここに1956年12月末迄の調査の結果を発表することにした。

大阪湾南港埋立地の位置及地形は図に示す通りである。大和川と住吉川とに挟まれた元の住吉浦の西端に位する方約1軒(キロメートル)の埋立地であり……

南港橋迄に至る元住吉浦には戦前には火薬庫が二か所あった。堀と堤防とに依って囲まれ、付近は一面ヨシ原と湿性植物の繁茂する荒地とで、立入る事を禁止されていたので、ここにも沢山のシギやチドリの類が渡来した。然し戦後直ちに火薬庫は取りこわされ、荒地やヨシ原は或は埋立てて工場が立ち並び、又一部は更に掘り下げて池となり、住吉川に閘門を開く貯木場として利用される等環境は全く一変した。今日ではシギ・チドリ類の渡来地には到底なり得ない所である。



榎本佳樹「野鳥便覧」下巻より

■大阪支部誕生のころ 第2代支部長 藤原廣蔵 記 抜粋

住吉浦は南港埋立工事のなかった時分の木津川の河口と住吉川の河口の合う、今は発電所のある付近で、現在では地形の想像も出来ない程変ってしまった。

春秋のシギ、チドリは勿論、余り人の立ち入らない場所のため、コチドリ、シロチドリ、コアジサシ等のコロニーがあり、その数たるや夥しいもので、その地域に入ると、どれかの巣を踏まわずに進むことは困難であった。カルガモ、バン、オオヨシキリなどの巣も多く、舟を利用すると便利であった。

第1回 平林貯木場（住吉浦・平林埋立地）

2024年3月30日（土）

集合 9:30 ニュートラム 平林駅 改札口

解散 12:00 住之江公園内

野鳥チェックリスト（網掛けは2024年3月27日の下見時に記録できた種）

種名	☑	種名	☑	種名	☑
1 オカヨシガモ		21 ハマシギ		41 スズメ	
2 ヒドリガモ		22 ユリカモメ		42 ハクセキレイ	
3 マガモ		23 カモメ		43 カワラヒワ	
4 カルガモ		24 セグロカモメ		44 アオジ	
5 ハシビロガモ		25 ミサゴ		45 カワラバト(ドバト)	
6 オナガガモ		26 ハイタカ			
7 コガモ		27 チョウゲンボウ			
8 ホシハジロ		28 モズ			
9 キンクロハジロ		29 ハシボソガラス			
10 スズガモ		30 ハシブトガラス			
11 カイツブリ		31 シジュウカラ			
12 カンムリカイツブリ		32 ツバメ			
13 キジバト		33 ヒヨドリ			
14 カワウ		34 ウグイス			
15 アオサギ		35 メジロ			
16 ダイサギ		36 ムクドリ			
17 コサギ		37 シロハラ			
18 オオバン		38 ツグミ			
19 コチドリ		39 ジョウビタキ			
20 イソシギ		40 イソヒヨドリ		合計種数	

MEMO